

平成 29 年 1 月 20 日  
直方川づくり交流会  
遠賀川河川事務所

遠賀川水辺館が地域に提供する防災教育や環境教育の効果について  
～1 月 23 日に直方市長を表敬訪問し報告します～

- 遠賀川水辺館を拠点に活動する「直方川づくり交流会」が、発足 20 周年を迎え、2 月 18 日にシンポジウムを開催することとしました。
- シンポジウムの開催に先だって、遠賀川水辺館が地域に提供している防災教育や環境教育の定量的な効果を取りまとめました。
- その結果、防災や河川環境保全、川の安全利用に関する知識の習得や意識の向上に寄与し、子どもたちの自立心や郷土愛、社会貢献意識も育んでいることがわかりました。
- 1 月 23 日に直方市長を表敬訪問し、この結果を報告いたします。

【直方市長への表敬訪問・報告】

1. 日時：平成 29 年 1 月 23 日(月) 13 時 15 分
2. 場所：直方市役所 市長応接室
3. 報告内容：
  - ・ これまでの支援に対するお礼、取組成果の報告
  - ・ 記念撮影
4. 訪問者 直方川づくり交流会(座長 野見山 ミチ子)  
※なお、随行者として遠賀川河川事務所が同行いたします。

【直方川づくり交流会 20 周年記念シンポジウム】

1. 日時：平成 29 年 2 月 18 日(土) 14 時(受付 13 時 30 分から)
2. 場所：遠賀川水辺館

※直方市長への表敬訪問とシンポジウムは、すべて取材可能です。

<問い合わせ先>

直方川づくり交流会 電話:0949-22-1810(遠賀川水辺館内)  
座長 野見山ミチ子  
国土交通省 遠賀川河川事務所 電話:0949-22-1830(代表)  
技術副所長 阿部 成二 (内線 204)  
調査課長 中島 忠 (内線 351)

【発表先】直方記者クラブ

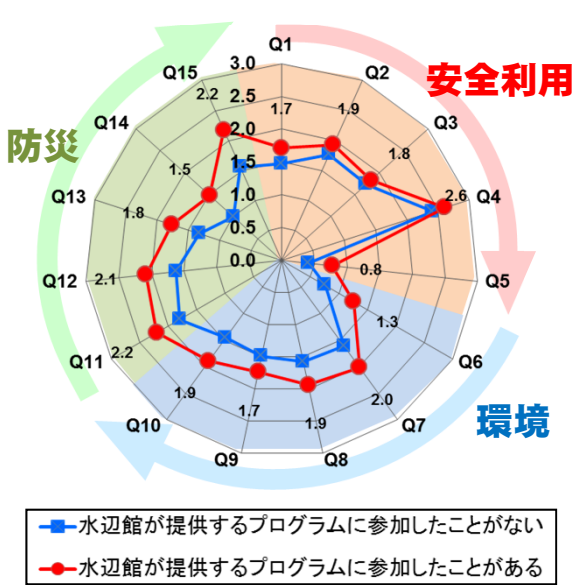
## 記者発表の概要

- 平成 8 年 6 月 27 日に発足した「直方川づくり交流会」が、20 周年を迎えました。
- 同交流会は、住民参加の川づくりを進めることを目的として活動を始め、平成 16 年からは、遠賀川水辺館を活動の拠点として、地域に防災教育や環境教育を提供しています。
- 遠賀川水辺館の累計利用者数は、平成 28 年 12 月末に約 37 万人に達し、近年 3 年間の年間平均利用者数は約 2 万人となっています。
- 遠賀川流域の子どもたちは、水辺館で学び、多くの大人と接し、経験を積み、成長し、すでに成人を迎えた子どももいます。
- このたび、直方川づくり交流会の発足 20 周年を記念し、遠賀川水辺館で学んだ子どもたちに集ってもらい、2 月 18 日(土)にシンポジウムを開催することとしました。
- これに先だって、直方川づくり交流会が中心となって遠賀川水辺館が地域に提供している防災教育や環境教育の効果を定量的に把握しとりまとめました。その結果、
  - 防災や河川環境保全、水辺の安全利用に関する知識の習得や意識の向上において大きな効果があることがわかりました。
  - それに加えて、自立心や郷土愛を育み、社会貢献意識を高める効果もあることがわかりました。
- 川に関するソフト施策は、人づくりやまちづくりにもつながっているのだと思っています。
- 直方川づくり交流会は、これまで活動を支援していただいた直方市に対して感謝の気持ちをお伝えするとともに、取組の効果を報告するために、1 月 23 日(月)に壬生市長を表敬訪問することといたしました。

# 遠賀川水辺館において直方川づくり交流会等が地域に提供する防災・環境教育の効果

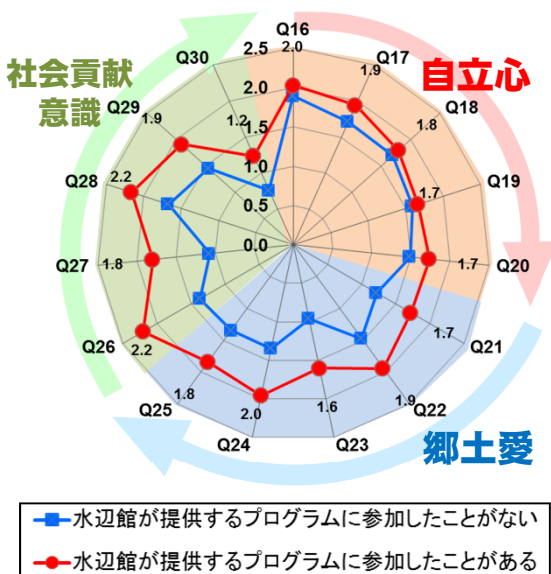
○ 遠賀川水辺館を拠点として活動している直方川づくり交流会等が地域に提供する防災教育や環境教育は、防災や河川環境保全、水辺の安全利用に関する知識習得や意識向上に寄与するとともに、子どもたちの自立心や郷土愛、社会貢献意識を育てている。

## ■ 防災、環境、安全利用に関する知識・意識



安全利用	Q1 川の水の勢いや流れかたを知っている
	Q2 川を利用するときの危険な場所がわかる
	Q3 川での遊びを知っている
	Q4 川を利用するとき安全に気を付けている
	Q5 川の安全な利用について話したことがある
環境	Q6 川のかたかが気になる
	Q7 川のきれいさが気になる
	Q8 川に棲む生き物が気になる
	Q9 環境の変化が気になる
	Q10 ゴミを拾ったことがある
防災	Q11 水害の恐さを知っている
	Q12 自然災害のニュースが気になる
	Q13 防災情報の取りかたを知っている
	Q14 川の工事の目的を知っている
	Q15 避難の心がまえや備えについて聞いたことがある

## ■ 自立心、郷土愛、社会貢献意識



自立心	Q16 異なる学年や他の学校の仲間と交流でき楽しむことができる
	Q17 大人の人と関わりコミュニケーションを図ることができる
	Q18 自分で考えたり課題を見つけたりすることができる
	Q19 人前で自分が思ったことや考えたことを話すことができる
	Q20 発表や意見について褒められたことがある
郷土愛	Q21 川が気になりつついつい見してしまう
	Q22 山や川の良さを知っている
	Q23 福智山や遠賀川のあるふるさとを自慢したいと思う
	Q24 地元のまつりなどの行事に参加したいと思っている
	Q25 地域の人とのふれあいを楽しいと感じている
社会貢献	Q26 活動の拠点となる水辺館などが近くにあると良いと思う
	Q27 ボランティア活動に関心がありやってみたいと思う
	Q28 身近な環境を考えることが、地球環境に繋がっていると思う
	Q29 活動で学んだことを日常生活で活かすことができている
	Q30 山や川など自然に関わる仕事に就きたいと考えている

■ アンケート回答者数: 173名(小学生～大学生)

■ 質問: 30問を設定 ■ 回答: とてもある(3点)、少しある(2点)、ほとんどない(1点)、ない(0点)の4段階

■ グラフ: 全回答者の平均値(表示した数値は、参加したことがある者の値)

## 参考－1 水辺館が地域に提供する防災教育、環境教育の効果把握の方法

### ○ 調査方法

アンケート調査による方法

### ○ 調査期間

平成 28 年 11 月 1 日～12 月 28 日(2ヶ月間)

### ○ 調査対象

小学生から大学生

①遠賀川水辺館が提供するプログラムに参加したことがある者

②遠賀川水辺館が提供するプログラムに参加したことがない者

### ○ アンケートの方法

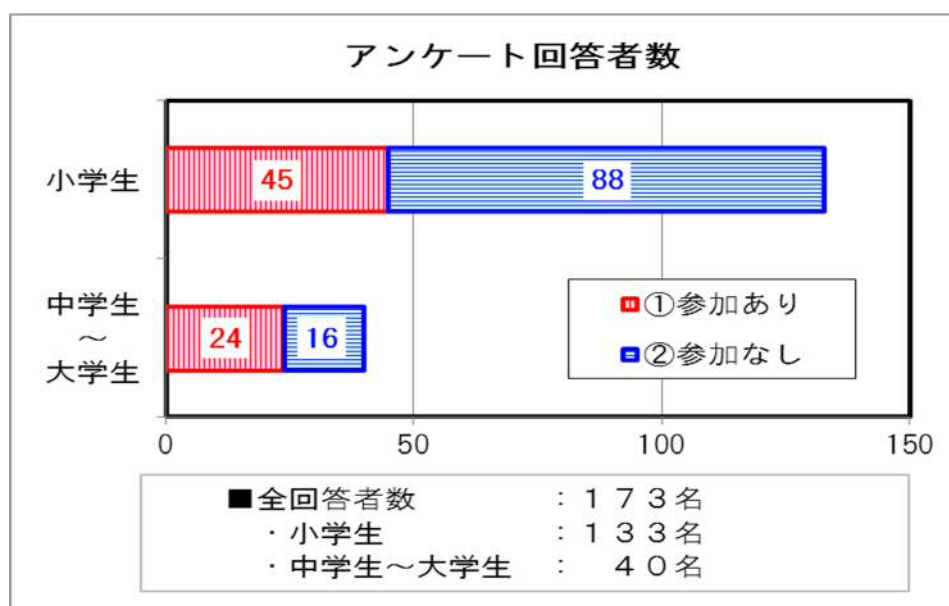
- 上記の調査対象者①は、郵送又は手渡しにより依頼し回収。
- 上記の調査対象者②は、小学生については、直方市内の小学校(5, 6 年生)に依頼し回収。中学生から大学生は、上記の調査対象者①を介して依頼し回収。

### ○ 設問と回答

- アンケートは 30 の質問を設定。
- 回答は、とてもある(3 点)、少しある(2 点)、ほとんどない(1 点)、ない(0 点)の 4 段階の回答とした。

### ○ 回答者数

- 下記のとおり。



## 参考-2 直方川づくり交流会の概要

- 発足  
平成 8 年 6 月 27 日
- 座長  
野見山ミチ子
- 会員数  
22 名(平成 29 年 1 月現在)
- 活動のスローガン  
発足当初から、「川づくりは人づくり」をスローガンに活動中。
- 活動の概要
  - 国内外の川を視察した上で「遠賀川夢プラン」を提案し、行政との協働による川づくりの実践や、子どもから大人まで幅広い世代に対して防災教育や環境教育を提供している。
  - 毎月 1 回の頻度で定例会を開催し、平成 29 年 1 月時点で 236 回を数えている。
  - 遠賀川をフィールドとして水生生物、植物、野鳥などをテーマにした自然体験学習「リバーチャレンジスクール」は、平成 28 年末に 89 回目を迎え、これまで 1,163 名(延べ 2,152 名)の子どもたちが参加している。
  - 遠賀川水辺館とその前面の遠賀川河川敷「遠賀川直方の水辺(土木学会デザイン賞 2009 最優秀賞)」は、交流会から生まれたアイデアであり、大きな成果となっている。



リバーチャレンジスクール 88 (平成 28 年 7 月 23 日)